

故儀野いさむ名誉主幹惣ぶ会

追悼記念句会

日時 令和4年12月10日
場所 ヴィアール大阪
呼び名 西 美和子
記名 中岡 千代美

参加者ご芳名 50音順

青砥たかこ 磯山 常男 油谷 克己 安藤 紀菜
井倉 和子 池田 武彦 稲葉 良岩 岩田 明子
植野 繁子 植野美津江 碓氷 祥昭 江畑 哲男
太田 佳生 大西 將文 大堀 正明 小笠原 望
岡本 余光 小川 賀世子 荻野 浩子 沖本 万喜
小代千代子 乙部 美鈴 片岡 加代 川端 六点
神田 良子 岸井ふさゑ 木嶋 盛隆 北川ヤギエ
吉川 哲矢 倉 利春 栗原つや子 草間 呱呱
楠本 晃朗 桑原ひさ子 くんじろう 黒川 孤遊
桑原すゞ代 五味 尚子 小山恵美子 小島 蘭幸
小寺八重子 阪本 秀子 坂本よし子 阪本きりり
阪本 高士 佐藤 辰雄 嶋 喜八郎 澤井 敏治
柴田 桂子 下岡 昌美 嶋 正夫 重徳 光州
島田千代子 新家 完司 鈴木 順子 正信寺尚邦
白井 笙子 染山 朝子 鈴木 等 鈴木 宇牧
銭谷まひろ 立堀 尚子 高橋 明美 高橋 螢柳
滝川 重人 田中 美弥子 田中 香薫 田中 東風
田中 新一 田中美弥子 辻部さと子 谷川 柳伸
田吹 宗鉄 肇

御供え・御花代を頂いた方々 順不同

出口セツ子 戸田 清孝 栃尾 奏子 中井 佳子
長井 喜隆 中岡千代美 中城 裕子 永田梅太郎
中原 京子 仲村 周子 西 美和子 西上 遊二
西澤 知子 西出 楓楽 沼田 捷二 年梅 道子
野口真桜子 野口 龍 橋本 恭治 長谷川崇明
濱野とみ子 林 ともこ 原田 正士 播本 英二
久崎 田甫 菱木 誠 藤本 鈴菜 古川 洋子
鮎子田嘉子 藤田 武人 藤本 知栄 増井 純子
本田 智彦 前中 一晃 松岡銀杏城 松本あや子
松井あもん 松浦 孝子 美馬りゅうこ 都 武志
松本 榎子 南 三好 聖水 毛利 元子 物種 唯修
宮原 せつ 森 廣子 森中恵美子 八木 幸彦
森 茂俊 矢野 野薫 山田 順啓 山藤 聖子
矢沢 和女 湯澤 孝扇 弓山 アヤ 吉井ティ子
山本さくら 吉富ひろし 米田 恭昌 計143名
くらわんか番傘川柳会 様
川柳東大阪 様
生駒番傘川柳会 様
うめだ番傘川柳会 様

30、000円
10、000円
10、000円
5、000円

番傘わかくさ川柳会 様
奈良番傘川柳会 様
番傘川柳北斗会 様
番傘みどり川柳会 様
京都番傘川柳会 様
やまと番傘川柳社 様
川柳二七会 様
大分県番傘川柳連合会 様
番傘折鶴川柳会 様

竹掃小高黒久江
村部代橋川崎畑
穂博千紀孤田哲
夫隆子代遊甫男
様様様様様様様

1 0、	1 0、	5、	5、	1 0、	1 0、	1 0、
0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、
0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、	0 0、
円	円	円	円	円	円	円

事前投句

「芝居」



田中 新一 選

(番傘川柳本社主幹)

選者吟

寂しさを打ち消すように高笑い

手を曳いて百寿を目指す夢芝居	久崎 田甫	細身でも秋刀魚主役と見得を切り	長谷川 崇明
村芝居はっこり役者あたたかい	谷川 香與	詐欺集団芝居仕立てで攻めてくる	山藤 聖子
喝采は女ばかりの村芝居	木村 利春	芸風に人間臭さにじみでる	阪本 秀子
七癖がすぐ出てしまう村芝居	吉川 哲矢	ブランドまとい幸せ芝居クラス会	中原 京子
美しい狐に惚れた村芝居	阪本 高士	おみおつけ一人芝居の幕が開く	佐藤 辰雄
近松の恋三味線に煽られる	美馬りゅうこ	生かされてひとり芝居がまだ続く	白井 笙子
路地裏で紙芝居見た昭和の日	下岡 昌美	一人芝居自分にあげる努力賞	小川 賀世子
アドリブもとび出し舞台今佳境	松本 柊子	芝居などしない直球ド真ん中	植野 繁子
泣き笑い寛美の芸に癒される	嶋 喜八郎	たまさかに演技も入れて夫婦する	桑原 ひさ子
一目のきらりと光る立役者	坂本 よし子	脇役の上司は部下を輝かす	藤田 武人
受け継いだ満席願う芝居文字	沖本 万喜	ワイシャツの白は芝居が巧すぎる	矢沢 和女
国会はへたな芝居を見せる小屋	青砥 たかこ	転校の数が自慢の旅役者	年梅 道子
宝塚ホの十六がお気に入り	南 高志	うぶな娘もつくり笑いが上手くなり	吉岡 まさお
語り継がねばだしのゲンの紙芝居	澤井 敏治	善人を装う芝居肩が凝る	新家 完司
悪ガキも大人しくなる紙芝居	岸井 ふさゑ	かあちゃんと演じる芝居今佳境	田中 薫
母闘むとホームドラマになる我が家	北川 ヤギエ	今日も又妻の芝居に騙される	物種 唯修

和解するための芝居は憚らぬ	岩田 明子
生きようと必死の芝居囁われる	森 廣子
夢の中おひねり抱え笑う僕	野口 龍
喝采に遠き人生演じ切る	毛利 元子
大芝居打ってお見舞いから帰る	大堀 正明
生き抜いた芝居の幕は家族葬	本田 智彦
馬鹿装って彼の本性見定める	原田 正士
誘われて予習して行く大歌舞伎	田吹 宗鉄
噓泣きのはずが本気になってくる	弓山 アヤ
痴れ者を演じ賢く立ち回り	江畑 哲男
威張らせて煽てて手綱握る妻	栗原つや子
酔ったふり猫なで声で芝居する	永田梅太郎
降りかかるピンチのがれた一芝居	田中美弥子
これからどう生きようか夢芝居	染山 朝子
三幕目生きて気合いの芝居打つ	辻 肇
いい人をやめる芝居が難しい	安藤 紀楽

ひとりの夜写楽のような見栄を切る	小笠原 望
尻尾だけ振ったが台詞間違える	重徳 光州
母だけは僕の芝居を見抜いてた	鮎子田嘉子
ばあちゃんのお伴で遠い日の芝居	植野美津江
愚を積んで積んで人間らしくなる	笹倉 良一
寂しさで一人芝居が上手くなる	八木 幸彦
病妻へ笑顔の芝居続けねば	油谷 克己
告知せず悲しい芝居最期まで	中城 裕子
母の涙にだまされておく冬の蠅	吉井ティ子
笑う母僕を安心させるため	柴田 桂子



宿題

「写す」



江畑 哲男 選

(関東・東北総局長)

選者吟

コピペして卒論なんて平っちゃら

磯野師が仲間の胸に写す笑み
お土産にスマホで撮ってから食べる
朝な夕な老母リモートで確かめる
食べる前儀式のように写す皿
毎食をスマホに残す闘病記
その内にZOOMの句会增加してくる
般若心経墨の香りに癒される
黒板をスマホで写し忘れてる
一人だけ外方を向いている写真
男前に写してくれてありがたいとう
アルバムを繰れば飛び出すハイチーズ
生き様を写す句集にひととなり
無人販売良心写す小銭缶
お手本を写すだけでも上がる腕
スキナーも心の傷は治せない
年輪の厚さをコピペしておこう
衛星が写した地球セピア色
サウナで体写経で心整える
浮世絵を模写した偉大なるゴッホ
解答を写すスマホの無言劇
ITで進化を遂げるカンニング
胃カメラが写すわたしの常日頃
飢餓戦争写すカメラも泣いている
あの人は写真うつりがよかったんや
せっかちを直してくれている写経

島田千代子
川端 六点
仲村 周子
青砥たかこ
津守 柳伸
白井 笙子
播本 英二
下林 正夫
柴田 桂子
矢野 野薫
木村 利春
北川ヤギエ
栗原つや子
八木 幸彦
笹倉 良一
菱木 誠
中井 佳子
立堀 尚子
小島 蘭幸
吉井ティ子
佐道 正
長谷川崇明
穂山 常男
下岡 昌美
新家 完司

吉永小百合コピペしたよな妻の顔
お見合い写真モンローになっている
災害のフェイク動画の狙い何
撮り鉄が写すローカル路の余情
身だしなみ合わせ鏡の後頭部
瞬間のゴールテレビで何度でも
ドーハの歓喜号外の大写真
元気を写す朝のうれしい水鏡
夫の背の曲がり癖まで父譲り
逆さ富士私の顔も写ってる
そう言えば二人で撮ったことがない
保存する別れ上手な君の肩
スクープを撮ったスマホが姦しい
し判をはみ出て遺影にはむかぬ
コピペしたわたしの影が踊ってる
幸せの空気が写る良い写真
司馬遼の描く乱世が美しい
人間を模して仏像造られる
ウィンドに写す虚像もわたしです
小窓から写せば小窓ほどの笑み
人が減る国の行く末写してる
右端が僕の写真の指定席
アルバムを百冊捨ててくださいね
アルバムの中に見知らぬ僕が居る
写真写りが悪いとあの顔で言うか

原田 正士
西澤 知子
植野 繁子
澤井 敏治
嶋 喜八郎
三好 聖水
西 美和子
宮原 せつ
年梅 道子
野口 龍
中岡千代美
藤本 鈴菜
五味 尚子
くんじろう
阪本きりり
田中 薫
柴田 園江
山田 順啓
小代千代子
桑原すゞ代
田吹 宗鉄
木嶋 盛隆
楠本 晃朗
藤田 武人
倉 周三

宿題

「愛妻」



重徳 光州 選

(東海総局長)

選者吟

酔眼で見れば天女のような妻

こんな美人が僕へ嫁いでくれました 愛妻家自負した頃もセピア色 たいせつな君がそばにいる幸せ 満面に愛を含んで愚妻です 恋女房ときに金棒ふりまわす 愛妻と呼ばれることもなく昏れる 愛妻を亡くして罪のなかにいる ピンクの下着愛の表現深くなる 愚妻でない愛妻ですと真面目顔 愛妻は御機嫌斜め呑めない日 悪妻と口でけなして仲がよい ありがたや愛する妻の指示で生き 実いうと尻に敷かれた愛妻家 愛妻とテレずに言える脳回路 鑑賞用の妻でひねもす見て飽きず 棺から初告白をするつもり 愛妻の言うことハイと返事する 愛妻より愚妻の方が様になる 愚痴言わず俺の母へのおむつ替え 極上の枕は妻の膝枕 愛妻と言われて心くすぐられ 愛妻と言ってしまっただけ 生きんな妻は白髪に花を挿す 綿棒を手に思い出す妻の膝 諭吉よりお前が好きと言う夫	中岡千代美 神田 良子 原田 正士 小代千代子 矢沢 和女 木本 朱夏 吉川 哲矢 小山恵美子 大堀 正明 前中 一晃 植野美津江 久崎 田甫 澤井 敏治 沼田 捷二 正信寺尚邦 楠本 晃朗 本田 智彦 松本 柊子 中城 裕子 桑原ひさ子 中原 京子 田吹 宗鉄 黒川 孤遊 仲村 周子 矢野 野薫	愛妻が居るのに余所見してしまう 寝る時に三ツ指ついてくれる妻 愛妻と呼ばれぬままの今ひとり 新婚のそぼろ弁当ハート型 ありがとう空気のような妻である 愛妻と歩幅合わせて生きている 柩にすぎる寡黙な父は愛妻家 シナリオに無かった妻が先に逝く 約束を今も抱いてる妻の星 ケンカしていても洗濯してくれる ひとめ惚れで拝み倒してもろた妻 ケチャップでスキといまだに書いてある 仕方なく尻に敷かれる愛妻家 愛妻を自慢している恐妻家 うたた寝の妻の涎を拭いてやり オイと呼び慣れています为爱妻家 愛妻がフロと言ったら風呂沸かす 息絶えた妻へ感謝の添い寝する 愛妻で妻の影から出られない 妻に手を引かれて歩く嬉しさよ 素晴らしい妻でいつも側にいる 落ち込んだ日も愛妻が傍にいた 愛妻に後悔ないか問う日記 介護する老妻の背に手を合わせ まだ妻に渡せずにいる感謝状	田中美弥子 三好 聖水 谷川 香與 濱野とみ子 田中 薫 北川ヤギエ 宮原 せつ 田中 新一 阪本きりり 橋本 恭治 年梅 道子 藤田 武人 岸井ふさゑ 山田 順啓 くんじろう 美馬りゅうこ 新家 完司 福西 禮子 穂山 常男 藤井 康信 津守 柳伸 岩田 明子 沖本 万喜 野口真桜子 片岡 加代
---	---	---	---

宿題

「歌う」



久崎 田甫 選

(北陸総局長)

選者吟

おひらきに奥飛驒慕情歌うボス

老いくの恋ハミングが止まらない
一番でやめるとうまいほめられる
ワテンボずれて三番まで歌う
仕舞い風呂何時も高校三年生
歌好きはうたえばこころ軽くなる
晴天の小鳥の歌が気をくれる
天城隧道やっぱりさゆり歌ってる
あの歌が着信音になってる
歌上手気配り上手な美人秘書
老残に懐メロだけが身に沁みる
九ちゃんを歌うと涙ぐんでくる
愛されて人はやさしい歌になる
宇宙まで響くアリアにまだ会えず
回復の兆しか母が口遊ぶ
微力でも平和を願う歌ってる
朗々と国の独立祝う歌
あの歌がリフレインする雨の夜
不死鳥を歌うたましい飢する
施設の輪になじみ童謡歌う母
裏表ない健さんの歌に酔う
洗いざらしの作務衣で歌う反戦歌
聴診器鼓動は歌う脈確か
童謡は忘れていない二度童子
拍手送ろう平和を歌うミュージシャン
お湯の中スーダラ節の父となる

五味 尚子
三好 聖水
大堀 正明
播本 英二
高橋 明美
高橋 宇牧
小川賀世子
松本 柎子
出口セツ子
松岡銀杏城
安藤 紀楽
栃尾 奏子
矢沢 和女
鈴木 順子
岸井ふさゑ
弓山 アヤ
吉岡まさお
荻野 浩子
北川ヤギエ
吉川 哲矢
青砥たかこ
湯澤 孝扇
澤井 敏治
田中美弥子
山本さくら

涙くんさよなら歌う老いふたり
愛の讃歌もうこの人に決めました
口でなく心で歌い酔わせます
歌うなら世界にひとつだけの花
この歌を歌えば記憶開く扉
追憶のときに哀しいラブソング
詩歌吟じ古き時代を問うて見る
九条で子には軍歌を歌わせぬ
ひもじさをリングの歌で耐えいた
懐かしいロシア民謡あるのだから
戦争も平和も知っている国歌
故里を歌うと浮かぶ母の顔
輝いて手話のコーラス夢ひらく
辛い時つぶやくようにヨイトマケ
病む母が涙でうたう里の歌
懐メロに昔のわたし呼び覚ます
春になれば六甲おろし歌いたい
クリスマスの歌と思っていた第九
爺ちゃんの鼻歌日ごと経に似て
輪唱の負けじと声を張り上げる
ふるりの顔に戻って安来節
クレムリンで歌ってみたい反戦歌
人として歌い継がねば反戦歌
硝煙よ母よイマジン口ずさむ
通天閣仰ぎ王将くちずさむ

染山 朝子
田中 螢柳
中原 京子
桑原ひさ子
島岡美智子
江畑 哲男
坂本よし子
龜山 常男
川端 六点
田吹 宗鉄
阪本 高士
矢野 野薫
福西 禮子
銭谷まさひろ
重徳 光州
井倉 和子
物種 唯修
正信寺尚邦
中城 裕子
濱野とみ子
沼田 捷二
油谷 克己
岩田 明子
柴田 桂子
新家 完司

宿題

「くすり」



黒川 孤遊 選

(九州総局長)

選者吟

錠剤に情性で生きる術習う

彼女から電話があると風邪なおる
長生きのくすり要る人いらぬ人
治癒力を信じ薬は飲まぬ主義
ゾコバは効くのコロナは無くなるの
山ほどのくすりが重い旅カバン
へマしては付けるくすりを探してる
心配無用くすりのくすり飲んでます
ピンピンコロリと逝くため飲んでいる
くすりに頼らぬ朝のスムージー
頓服のようなメールがあなたから
失敗をくすりにできる生き上手
裸婦像へくすりと笑う古い二人
ふる里は和田カルシウム道修町
目薬さしてお墓参りに行きました
一番の薬は日日のお献立
ピリオドを打てぬ命へ薬漬け
初雪に琥珀の酒という薬
薬局で足りるからだに感謝する
W杯負けて次期へのくすりだな
ワクチンを五回も打って逃げ回る
おんなの艶よく効く恋の処方箋
薬より妻と笑顔のロゼワイン
薬飲む水で乾杯クラス会
昭和の母子のかすり傷唾つけた
飲んだかな未だかなくすりがやませる

太田 佳生
沖本 万喜
川端 六次
藤本 鈴菜
小寺八重子
辻 肇
野口 龍
年梅 道子
梁山 朝子
美馬りゅうこ
八木 幸彦
木嶋 盛隆
南 高志
西澤 知子
仲村 周子
神田 良子
吉川 哲矢
田中美弥子
本田 智彦
田中 薫
小山恵美子
長谷川崇明
木村 利春
山藤 聖子
松本あや子

ばあちゃんの眠りくすりも陀羅尼助
快調だくすり全部を捨ててから
効くと思ひ飲んでおります知らんけど
ご長寿のくすり身長まだ伸びる
ブラジボとわかったとたん熱が出る
おくすりの時間お酒を飲む時間
ブランコは疲れた夜の常備薬
バカのままでいかくすり無いならば
故郷に安らぎという置き薬
お地藏さんくすりときさせる麦畑
生かされるこの一粒と川柳と
万病に効くのはやはり褒め言葉
画像みて薬へらすと担当医
老いてな薬と無縁健康家
わたくしの味方は一粒のニトロ
忠告が過ぎて結果を悪くする
報われるダイヤの指輪くすり指
バーボンと龍角散と父ちゃんと
失恋に日にち薬が効いてくる
くすり漬け銀河列車の出発だ
いくさ好きボスに特効薬が無い
九条は平和を守る常備薬
命ゆらゆら錠剤を転がして
弱くなった男をためしたいくすり
薬包紙あと一服で千羽鶴

植野美津江
吉井ティ子
滝川 重人
阪本きりり
立堀 尚子
小島 蘭幸
くんじろう
北川ヤギエ
栗原つや子
沼田 捷二
吉岡まさお
新家 完司
阪本 秀子
油谷 克己
荻野 浩子
坂本よし子
草間 呱呱
桑原すゞ代
菱木 誠
阪本 高士
岩田 明子
柴田 園江
矢沢 和女
森中恵美子
正信寺尚邦

宿題

「絵画」



小笠原 望 選

(四国総局長)

選者吟

花を描く癌の治療の中休み

孫が画くばあちゃん細い目太い皺
財テクの絵画歪んで見えてくる
ダウインチには負けるがピカソ並みの孫
絵に描けば売れる棚田の秋の景
踏み絵には多くの似顔絵描いてある
魂が叫びつづける無言館
A I の絵筆いざなう星月夜
絵画より武器が欲しいとウクライナ
一幅の絵になる角度探す窓
モディリアーニの女に似てる細い首
絵画展ひまわりだけを見て帰りに
ここにこためり絵の母の愛おしい
思い出の絵画に父も母もいる
小児病棟スケッチブックは白いまま
北斎の波さんぶりと富士を呑む
虹の絵に利休鼠を足す老後
ゲルニカの叫びロシアに届かない
深水の女へ赤い雪が降る
お目さまも花もにこにこクレヨン画
わたくしの一揆絵の具の乱気流
神の絵筆が四万十川を描く
上海はムンクの叫び白い紙
絵手紙の筆とりひと目画伯です
希望という絵の具で明日を塗り直す
赤と黒二色で足りる地球の絵

橋本 恭治
大堀 正明
播本 英二
笹倉 良一
川端 六平
澤井 敏治
阪本きりり
出口セツ子
松本 柊子
乙部 美鈴
矢野 野薫
柴田 園江
八木 幸彦
佐藤 辰雄
美馬りゅうこ
銭谷まさひろ
田中 薫
矢沢 和女
片岡 加代
島岡美智子
碓水 祥昭
下岡 昌美
染山 朝子
木本 朱夏
黒川 孤遊

泣いている恐竜もいる子どもの絵
お絵描きの延長線にバンクシー
向きあえばしぶきがかかる魁夷の絵
S D G s 落ち穂拾いにある美学
後ずさりしながらジッと見る絵画
ゴッホの黄私は赤で生きて来た
ひまわりの絵から廃墟のウクライナ
ダリの絵に居眠っている魚の記憶
生かされてほっとしている水墨画
西窓のキャンバス映えの見事
五十年絵になるふたり日向ぼこ
若冲の鶏が丑三ツ時に啼く
富弘の詩画に励まされたベッド
バーチャルで名画の中に旅をする
シャガールは人も天使もみな逆さ
絵画展マスクの人がたちつくす
ひまわりはトマト浴びても怯まない
自画像に百万本のバラ添えて
反戦を崩れた壁に描いている
水玉が小さくて重い名画展
近づけば点離れると銀河の絵
消えた名を惜しむ秋から冬の絵に
白絵の具混せてばかりして恋かしら
80億違ふ顔描く神の筆
腰痛とは無縁タヒチの女です

安藤 紀葉
岸井ふさあ
中城 裕子
五味 尚子
久崎 田甫
小島 蘭幸
荻野 浩子
吉川 哲矢
植野美津江
田中美弥子
小代千代子
正信寺尚邦
毛利 元子
沖本 万喜
田中 螢柳
森中恵美子
松井あもん
北川ヤギエ
阪本 高士
吉井ティ子
くんじろう
桑原すゞ代
林 ともこ
原田 正士
西澤 知子

宿題

旅



森中恵美子 選

(番傘川柳本社名誉顧問)

選者吟

生まれてひとりいつまでつづくひとり旅

いさむ翁旅立つまでも五七五
満面の笑顔思い出バリの旅
自己責任とする川柳の旅続く
雪は津軽のんのん旅人の眉に
薩摩へと手足伸ばした湯治旅
六地藏ひょっこり会えた飛驒の里
猫寺で福井の旅もおもしろい
旅が好き殊に由布院句碑の里
グルメ旅うどん今井で締めくくる
初冠雪の富士山は至近距離
越冬つばめ宿の枕が濡れた朝
オギアからサイナラまでの独り旅
行くあてもないのに今日も旅をする
仏壇に留守を頼んで旅飽
満月もいずれば欠けるひとり旅
片道の旅人生はそれぞれに
母の愛広げて食べた竹の皮
途中下車逢いたい人がそこにいる
旅のよさすべてを忘れリフレッシュ
旅立つ孫のうすい背中を押してやる
楽しかった旅もやっぱり家がいい
椿よし山茶花もよしひとり旅
旅立ち真紅のバラが散ってから
しがらみを断って自由な旅に居る
思影を辿って北の旅ひとり

矢野 野薫
南 高志
小島 蘭幸
小笠原 望
永田梅太郎
津守 柳伸
下岡 昌美
田中 螢柳
正信寺尚邦
草間 呱呱
松井あもん
川端 六点
桑原すゞ代
倉 周三
神田 良子
阪本きりり
本田 智彦
柴田 桂子
高橋 明美
宮原 せつ
林 ともこ
片岡 加代
五味 尚子
田中 薫
吉川 哲矢

旅先の無事を祈ってスクワット
良い旅が出来たと父母に感謝する
旅行けば非日常が枷はずす
お静かにヒナは巣立ちをするところ
夜行バス母の容態気にかかる
アルバムでタイムトラベルして過ごす
定年後赤いバイクにまたがって
恩人に献杯長い旅終わる
船旅は終わる花嫁抱きあげる
ウクライナへ旅立つ冬の渡り鳥
W杯の旅ブラボーに沸きました
浦島太郎で火星から帰る
宇宙へも旅が出来そう近未来
花の旅約したままの春がゆく
ガイドは阿弥陀彼岸へのひとり旅
蟹ツアーしばらくカニはいりません
返納し鈍行旅の良さを知る
旅支度酒と薬はいつももある
たまゆらの命ことほぎいちど旅
いい旅でしたあの人もこの人も
旅土産一男一女の顔浮かぶ
どこまでも夫婦一緒に旅続く
終着駅近い夫婦の長い旅
仏さんにも土産を買って旅おわる
山頭火とふとすれ違う冬の旅

高橋 宇牧
碓氷 祥昭
植野 繁子
くんじろう
油谷 克己
佐道 正
藤田 武人
菱木 誠
矢沢 和女
阪本 高士
柴田 園江
森 茂俊
小寺八重子
植野美津江
田中美弥子
西澤 知子
北川ヤギエ
楠本 晃朗
原田 正士
小代千代子
沼田 捷二
田中 新一
荻野 浩子
木本 朱夏
西出 楓葉